

●地球市民の6観点

- ① 自己と他者：私とは誰なのか/私(私たち)が私(私たち)であることをどう証明できるか/彼(彼ら)は何者か?
彼が私と異なる・同じであることをどう受け止めることができるか
- ② 時間と空間：時間と空間は「世界」をどのように形作り、その隔たりを超えてきたか/人類は時間と空間を
どのように把握し、受け止め、そして抗ってきたか?
- ③ 個人的表現と文化的表現：美、価値を①や②を超えてどこまで共有できるか/人は個の美意識や価値観を
どう表現し、他者のそれをどのように受け止めてきたか
- ④ 科学と自然：世界(自然界)はどのように出来上がっているか/科学の発展、開発にはどのような可能性が
あり、危険性を孕んでいるか
- ⑤ 公平性と発展：私たちは有限な資源をどのように共有することが出来るか/発展する公平な社会(関係)は
どのようにして創り出さうか
- ⑥ グローバル化と持続可能性：人、社会はどのように繋がっているか、繋がり得るか/ローカルなプロセスと
グローバルなプロセスはどのように繋がっているか

●開講予定講座一覧

	担当者所属学科	講座名	主たる観点	併せ持つ観点
1	国語科	古典文学の広がり	②	①③
2	国語科	映像文化と自己表現	①③	②
3	国語科	市民活動～防災ラジオ～	⑤	①③⑥
4	国語科	日本近代文学研究	③	①⑥
5	国語科	現代の思想と批評	①③	②④⑤⑥
6	国語科	「沖縄」から	②⑥	①⑤
7	社会科	純喫茶のエチカ	②	①③⑥
8	社会科	ミライのための平和プロジェクト	③	①②
9	社会科	旅する人の観光学	⑥	①⑤
10	数学科	数学的モデリングの技法	④	①②③⑤⑥
11	理科	卒論生物	④	①③⑥
12	理科	物理分野で卒業論文を執筆する	④	②
13	理科	環境化学	④	⑤⑥
14	芸術科	ヴォカリゼーション	③	①②
15	芸術科	若者をとりまく音楽文化の変遷	③	①②
16	外国語科	Well-being and Happiness through Global Perspective	⑥⑤	①
17	家庭科	服飾造形	③	⑥
18	家庭科	子どものしあわせを考える	⑤	①⑥
19	情報科	スパイダー討論で進める問題解決とリーダーシップ	①	④⑤

科目名	古典文学の広がり			教科名	国際（地球市民Ⅱ）	対象年次	3年次
分類	選択必修	主たる観点	②	併せ持つ観点	① ③	単位数	2
履修条件	2年次で古典探究または古典総合を履修していることが望ましい。						
履修上の注意事項	作品の読解は個人で行うため、基本的な文法や古典常識等の知識、能動的に文学を読む姿勢が必要となります。						
校外研究	なし			研究旅行	なし		
講座にかかる費用（教科書・副教材除く）	なし			内訳			

【学習内容と目標（5つのスキルをどう伸ばすか）】

中古・中世（平安・鎌倉期）の文学作品研究を軸として、日本の古典文学が他の時代・他の国の作品とどのように関わっているのか（例えば、平安時代の人々が中国の古典作品をどのようなものとして理解していたのか、あるいは後世の人々が平安期の作品をどのようなものとして捉えていたのか、等）について考えていく。以下の内容で、5つのスキルの伸長を図る。

思考スキル：文法や古典常識等の知識を用いて、本文の内容を自分なりに解釈する。

コミュニケーションスキル：作品読解や論文制作において、自分の考えを他者にわかりやすく伝える。

ソーシャルスキル：自分の考えを他者と積極的に共有し、また他者の意見を聞くことで考えを深める。

自己管理スキル：論文完成に向け、必要な作業計画を立て、期日までに完成させる。

リサーチスキル：必要な先行研究を収集し、その内容を批判的に読み、適切に利用する。

【学習計画（*は実験および実習）】

学期	単元	学習内容	学習活動の特徴・備考
1		・代表的な作品（『源氏物語』『枕草子』『平家物語』）を読み、作者や時代背景について知り、他の作品との関わりや読者の広がりについて考える。	古典作品研究の基本的な手法を知る。 個人研究論文のテーマを決定する。
2		・個人研究で扱う作品について、調査を進め、理解を深める。 ・個人研究論文の中間発表を行う。	
3		・個人研究論文提出 ・論文の合評会を行う。	最終発表については、相互評価を行う。 成果発表会の代表選考も兼ねる。

【評価方法】

観点	割合	評価方法
知識・技能	30%	中間発表、研究論文、授業中の取り組み（合評会のコメント等）を評価する。
思考・判断・表現	50%	
主体的に学習に取り組む態度	20%	

科目名	映像文化と自己表現			教科名	国際（地球市民Ⅱ）	対象年次	3年次
分類	選択必修	主たる観点	①・③	併せ持つ観点	②	単位数	2
履修条件	特になし						
履修上の注意事項	制作に際しては絵コンテ・素材集め・撮影・編集・納品までをすべて受講者が単独で行うため、計画的に作業を進めることが基本となる。つまりは自己管理スキルの低い者は途方もない苦勞をすることになるため、安易な動機による履修は決しておすすめしない。ここで言う安易な動機とは、動画配信サイトなどで昨今しばしば見られるような、ソフトウェアに予め備わっているテンプレートを用いた大量生産型の映像作品をイメージしているケースを指している。						
校外研究	なし			研究旅行	なし		
講座にかかる費用（教科書・副教材除く）	なし			内訳			

【学習内容と目標（5つのスキルをどう伸ばすか）】

映像メディアの作り方について知見を深め、制作者の意図を分析する力を身につけること。また、制作を通じて客観的な自己認識が出来るようになり、そのうえで適確に対象へと自らの意図を伝える力を身につけることが目標である。

全体の展開を作る際に「思考スキル」「リサーチスキル」「ソーシャルスキル」を活用し、各種演出技法を用いる際に「コミュニケーションスキル」を活用する。制作スケジュールを立て、進捗を考慮しながら完成までたどり着くために「自己管理スキル」を活用する。

部分は文脈のどこに配置するかで意味が大きく変わるのでということ強く意識し、最適解を模索し、見出すことができるようになることを目指す。

映像制作のみならず、言語表現を用いて文書を制作することも求められる。具体的には、前期に実施する授業内ペーパーテストとして事前配布のテキスト持ち込み可の論述問題を課す。後期にはアーティストステートメントを含むエッセイを課す。

【学習計画（*は実験および実習）】

学期	単元	学習内容	学習活動の特徴・備考
1期		映像の歴史・構造的意味・表現技法・現代における課題 自分の好きな映像作品を分析して紹介する *制作実習	座学 座学で学習したことを用いて、実際の映像作品を切り分けてみる 個人での制作（適宜担当教員と相談）
2期		中間面談（この前後の時期に映像の歴史にまつわる評論についての授業内ペーパーテストも実施する） *中間発表（作品の披露・質疑応答の場）	レジュメや合評会の場での問答も用いて、自分の作品についての解説や振り返りを行う
3期		中間面談 *卒業制作（映像作品・レジュメ・アーティストステートメントを含むエッセイ）	テーマの設定から、資料探し、取材や撮影などすべて個人の活動となる。担当教員が適宜アドバイスをする。

【評価方法】

1-2期	観点	割合	評価方法
	知識・技能	40%	映像 25+ペーパー15
	思考・判断・表現	40%	映像 25+ペーパー15
	主体的に学習に取り組む態度	20%	映像 5+中間面談 5 +合評会（質疑・コメント） 5+レジュメ 5

3期	観点	割合	評価方法
	知識・技能	40%	映像 25+エッセイ 15
	思考・判断・表現	40%	映像 25+エッセイ 15
	主体的に学習に取り組む態度	20%	映像 5+中間面談 5 +合評会（質疑・コメント） 5+レジュメ 5

科目名	市民活動～防災ラジオ～			教科名	国際（地球市民Ⅱ）	対象年次	3年次
分類	選択必修	主たる観点	⑤	併せ持つ観点	①③⑥	単位数	2
履修条件	特になし						
履修上の注意事項	特になし						
校外研究	コミュニティーFM 見学・取材及び体験			研究旅行	なし		
講座にかかる費用（教科書・副教材除く）	5,000 円前後			内訳 見学地等への交通費			

【学習内容と目標（5つのスキルをどう伸ばすか）】

音声表現と情報の単元では、まず、発声の仕組みを学び、ことばで伝えることを実践し、コミュニケーションスキルを磨き、正しい情報を伝える、聞くことで、リサーチスキル、ソーシャルスキルを活用します。

防災ラジオについて講演を通して、音声メディアの特色を学び、映像なしで、言葉のみで情報を表現すること、時間メディアのなかでの情報の優先順位、ラジオの役割を学び、ラジオ局への見学、取材等のフィールドワーク、レポート、ラジオコーナーの台本作成と実践、卒論という授業の展開により、コミュニケーションスキル・リサーチスキル・ソーシャルスキル・思考スキルをフル活用していくことを目標とします。

レポート、台本作成提出、ラジオまたはポッドキャストのコーナー出演、卒論提出により、自己管理スキルを評価します。

【学習計画（*は実験および実習）】

学期	単元	学習内容	学習活動の特徴・備考
1期	情報と音声表現	<ul style="list-style-type: none"> 音声表現における呼吸と発声の仕組みを学ぶ 天気予報における音声表現における情報の優先順位 防災ラジオの役割について学ぶ ニッポン放送 解説委員森田耕次の講演 	<ul style="list-style-type: none"> 発生の仕組みを論理的に理解する 時間メディアにおける情報の優先順位 ゲストスピーカによる講演 音声表現と情報について学び音声表現の実践 <p><u>成績課題</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 防災ラジオ講演を踏まえてのレポート課題
2期	フィールドワーク	<ul style="list-style-type: none"> グループワーク 防災ラジオの見学取材 地域コミュニティーとしての防災ラジオの役割と課題についての考察 	<ul style="list-style-type: none"> 見学や取材を通して、問題解決にむけてアプローチや提案をする。 <p><u>成績課題</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 地域コミュニティーとしての防災ラジオの役割と課題についての考察と提案レポート課題
3期	話す力 書く力	<ul style="list-style-type: none"> グループワーク プレゼンテーション 可能であればコミュニティーFMでも番組出演し、自分の意見を伝える体験をする レポート提出 	<ul style="list-style-type: none"> 音声表現の実践 <p><u>成績課題</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ラジオ出演またはポッドキャストによる情報発信の実践&コーナー進行台本提出 卒業論文

【評価方法】

観点	割合	評価方法
知識・技能	40%	レポート・プレゼンテーション・コミュニティーラジオ出演またはポッドキャストによる情報発信
思考・判断・表現	40%	レポート・プレゼンテーション・コミュニティーラジオ出演またはポッドキャストによる情報発信
主体的に学習に取り組む態度	20%	講義の感想文・レポート提出点・プレゼンテーションレジュメ提出点・ラジオ出演またはポッドキャスト発信におけるグループ作成の進行台本の提出

最終成果物は、地震大国日本において、わたしたちは3.11の被災者からのメッセージを受け止め、学びを防災に生かしているのかを考え、自分の生活圏における自主防災体制、対策を検証し、その課題と提案を記述する2500字以上のレポート課題とします。

科目名	日本近代文学研究			教科名	国際（地球市民Ⅱ）	対象年次	3年次
分類	選択必修	主たる観点	③	併せ持つ観点	①⑥	単位数	2
履修条件	特になし						
履修上の注意事項	特になし						
校外研究	なし（予定）			研究旅行	なし		
講座にかかる費用（教科書・副教材除く）	5000円程度		内訳 書籍購入				

【学習内容と目標（5つのスキルをどう伸ばすか）】

私たちにとって文学とはどのような価値を持つものなのでしょうか。また、文学作品を構築する言語とは、どのようなものなのでしょうか。言語による表現の方法や、創作という営みの意義について考えることを、この授業の目標とします。

日本の近代文学の発展は、明治期に生まれた言文一致体の発展と軌を一にしています。近代小説・近代詩の草創期において、作家たちはどのような表現を目指し、どのように試行錯誤してきたのでしょうか。表現の方法を精査し、個々の作家の特色についての理解を深め、文学史の流れをつかみましょ。作品を読む過程で、同時代の資料を調査する方法を身につけ、当時の美意識や価値観についての理解も深めたいと考えています。

作品の解釈を通じて「思考スキル」を伸ばし、読解に必要な文献を調査することで「リサーチスキル」を身に付け、他者と意見を共有しあう中で「コミュニケーションスキル」「ソーシャルスキル」を磨きます。また、全ての取り組みにおいて、「自己管理スキル」が必要となります。課題に真摯に取り組むことで、5つのスキルを偏りなく伸ばしていくことを目指しています。

授業を通して論文執筆の方法についても学びます。学年末には個人研究論文の提出及び口頭報告を予定しています。

【学習計画（*は実験および実習）】

学期	単元	学習内容	学習活動の特徴・備考
1期	文献講読	<ul style="list-style-type: none"> 文学史及び文学研究の方法について、基本文献を読みながら学ぶ。 個人で設定した研究課題に関する文献を読み、先行研究の整理の仕方、論の組み立て方、論文の執筆について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業毎に割り振られた担当者が基本文献についてレジュメを作成し、授業内で討議する。 個人研究論文で扱う作品を決定する。
2期	個人研究 中間報告	<ul style="list-style-type: none"> 日本の近代文学から一作品を選択し、作品についてのレジュメをまとめ、報告する。 論文執筆の方法を学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 個人研究論文執筆の計画を立て、中間報告を行う。 文献の調査、論文の執筆を進める。
3期	中間報告 論文提出	<ul style="list-style-type: none"> 個人研究論文を提出する。 	<ul style="list-style-type: none"> 個人研究論文を提出する。 授業内で最終報告を行い、相互評価する。

【評価方法】

観点	割合	評価方法
知識・技能	20%	中間報告、個人研究論文の内容を評価する。
思考・判断・表現	60%	中間報告、個人研究論文の内容を評価する。
主体的に学習に取り組む態度	20%	授業内課題や、論文に取り組む姿勢から総合的に評価する。

科目名	現代の思想と批評			教科名	国際（地球市民Ⅱ）	対象年次	3年次	
分類	選択必修	主たる観点	①・③	併せ持つ観点	②・④・⑤・⑥		単位数	2
履修条件	特になし							
履修上の注意事項	<p>○批評を執筆するための題材として、豊富な熟意と知識を持つ対象があることが望ましい。</p> <p>○2年次までの学習で近現代の世界・日本社会について広く教養を身につけていることが望ましい。</p> <p>○主に講読形式で授業を展開し文献を多読するため、責任を持って講読の担当を担うこと。</p>							
校外研究	なし（予定）			研究旅行	なし			
講座にかかる費用（教科書・副教材除く）	¥10,000 程度		内訳 書籍の購入費					

【学習内容と目標（5つのスキルをどう伸ばすか）】

- 小説・マンガ・アニメ・映画・音楽・詩・舞台・動画・ファッション…などなどの（芸術）作品・コンテンツや作者、あるいは社会現象などを題材とした、「批評」を卒業エッセイとして執筆することをめざす講座です。
- 卒業エッセイ執筆の方法論として、近現代日本の（文芸）批評の伝統を参照します。近代日本の文芸批評は、アカデミズムにおける文学研究の手法とは一定の距離をおきつつ、文学を通して日本社会の問題を論じることで広範な読者を獲得しました。受講者の一人ひとりが興味・関心をもつ作品・領域の専門的な文脈を、現代の社会的・思想的文脈に結びつけること、平易にいいかえれば、「自分の好きなことの意義を論じ社会的に共有すること」の方法を模索していくことが、この講座の主要な目標になります（思考スキル）。
- 上記思考スキルの他、講読ゼミ・エッセイ執筆を通してアカデミックな探究におけるリサーチスキル・ソーシャルスキル・コミュニケーションスキルを養い、講読や発表などを責任を持って担当する自己管理スキルを求めます。
- 授業は、現代日本の文芸批評を中心に、批評の対象となる諸作品や、現代社会についての文献の講読を主に行います。受講者の興味・関心や執筆のテーマをもとに、講読する文献をその都度決めていく予定です。

【学習計画】

学期	単元	学習内容	学習活動の特徴・備考
前期	文献講読	講読する批評の一例 ○柄谷行人『日本近代文学の起源』 ○大塚英志『物語消費論』 ○加藤典洋『敗戦後論』 ○宇野常寛『ゼロ年代の想像力』	○主に講読ゼミの形式で授業を行います。担当者は文献についてレジュメを作成し、他の受講者にも事前の精読と問題提起を求めます。 ○文献の内容を理解するだけでなく、各自の関心や問題意識と結びつけた主体的な読み・議論が展開されることを期待します。
前期	個人研究 中間発表	○文献講読の授業と並行して、卒業エッセイの執筆に向けて文献の渉猟・整理、論の構成など、各自で自分のテーマについての研究を進めてください。 ○前期の間に何回か、授業での執筆テーマの紹介の時間や、担当教員との面談を設ける予定です。 ○前期の最後に、現段階での論の構成を紹介する中間発表を行います。	
3期	中間報告 文献講読	○受講者の執筆状況の報告とピアレビューを中心に授業を展開する予定です。 ○新たな論点が見えるなど、必要と希望に応じて文献講読を設けることも考えます。	

【評価方法】

- 講読の担当発表（**知・主**）15%、中間発表（**思・主**）15%、卒業エッセイ（批評）（**知・思・主**）70%を評価材料とする。
- 知識・技能（20%）においては、資料解釈や文献の渉猟・整理などの探究の基礎技能について評価する。
- 思考力・判断力・表現力（60%）においては、エッセイや発表の問題設定・論理性・表現力などについて評価する。
- 主体的に学びに向かう姿勢（20%）においては、自己管理スキルについて評価する。

科目名	「沖縄」から	教科名	国際（地球市民Ⅱ）	対象：3年次	単位数：2単位
選択必修	主たる視点は②時間と空間、⑥グローバル化と持続可能性 その他、①自己と他者、⑤公平性と発展				
履修条件	夏期（7月末～8月初旬）研究旅行に参加できる生徒				
履修上の注意事項	特になし				
校外研究	あり	研究旅行	あり（沖縄 3泊4日または4泊5日）		
講座にかかる費用（教科書・副教材除く）185,000円 内訳：博物館・資料館見学等 5,000円、研究旅行費用 180,000円					

【学習内容と目標（5つのスキルをどう伸ばすか）】

沖縄には、今この国と世界が抱える問題・課題のすべてがある。この講座は、20世期の「知」がたどり着いた「構造主義」の視点から、沖縄が抱える問題・課題に迫っていく。まずは「構造主義」とは何か、その基礎基本を学ぼう。「構造主義」の視点は、きっとこれまでの常識や概念、また「教え」を切り崩し、新しい地点にみんなを誘ってくれるはずだ。そして「歴史」とはなにか、「文化」とはなにかを考え、「報道」のあり方を問い、「教科書という常識」の中身を懐疑的に探り、今日の私たちとはまったく異なる「世界」を思い描いていた古代人の精神についても探究してみよう。

沖縄が抱える問題・課題に目を向ける、それは台湾や香港、ウクライナ、モンゴル、北朝鮮等々抱える問題に立ち向かうことでもある。私たちの「時間と空間」に責任を持つためにも、「沖縄」を、「沖縄」から、そして「沖縄」で考えてみよう。夏には沖縄へのフィールドワーク研修旅行（3泊4日程度）を実施する。ナマの沖縄に触れる、歩く、聞く、そして知る、その時間はきっとみんなの思考を生きたものを変えるだろう。

日常の授業では毎時間「考える」時間をおく。それ以上に生徒自らが「問う」という作業を行う。もちろんその作業の前には「問う」対象をしっかりと調査し把握することが必要になる。調査し考えた中身は常に発表し、総合してまとめ、また振り返る。これら一連の仕事を繰り返し、みんなには5スキルすべての獲得と向上を目指してもらおう。

【学習計画】

期	単元	学習内容	学習活動の特徴・備考
前期	①「構造主義」って、なんだろう？ ②「琉球」の歴史・「沖縄」の歴史 ③「学校」は何を教えている？ ④「新聞」「報道」は何を伝えている？ ⑤沖縄戦、そして基地問題 ⑥戦後の沖縄 表と裏 ⑦沖縄県知事選から考える ⑧沖縄の食文化 ⑨「おばあ」の語り ⑩ニライカナイが意味するもの ⑪沖縄の唄は何を歌う？	①「構造主義」を知る ソシユール、バルト、フーコー、レヴィ・ストロース、ラカンの仕事 ②「琉球～沖縄」はどう語られてきたか？ ③日本の教科書、世界の教科書（ドイツ、フランス、韓国）を並べたら、何がわかる？ ④沖縄の新聞と本土の新聞 並べてみたら？ ⑤「映像の世紀」から「沖縄」に近づいてみよう ⑥少しやばい、報道されない戦後の沖縄 ⑦沖縄県知事選 誰が何を語った？ ⑧例えば「豚」、どう食す？ ⑨古代自然信仰「御嶽」とおなり神 ⑩「ウチナンチュ」の魂、どこへいく？ ⑪『おもろそうし』、三線の調べ	●前半 50分で新知識に触れ、後半 50分はチーム毎に具体的な課題に取り組み（または調査し）発表する（授業2回分を使ってこれを行う場合もある）。●各単元の学習を通じて、問いを立てる練習を行い、最終課題研究論文のテーマ、リサーチクエスションの設定に繋げる。●6月中に課題研究テーマ・RQ設定を終え、中間報告①を行う。
夏期	沖縄研修旅行 7月末～8月初旬 3泊4日（もしくは4泊5日）	フィールドワーク研修 問題意識を共有するチームで、実際の「沖縄」を体験する。6月末までに研究テーマを設定、事前調査を行った上で、研修のポイントを定める。研修後は成果をまとめて報告。最終課題研究に繋げる。	
後期	～10月 前期未消化部分の学習 ⑫「日本」という国を考える ⑬「世界」を考える ⑭語られる・語られない「歴史」	⑫「日本」は何を選び取り、何を切り捨ててきたか？ 「切り捨て」の論理 「切り捨て」の背後にある事情と「旨味」 「切り捨て」の主体は何か？ 誰か？ ⑬世界に見る「切り捨て」の構造 「台湾」「香港」「モンゴル」から何が見える？ 「ウクライナ」から何が見える？ ⑭私たちは何を「見る」ことができるか？ 何を「見る」べきか？	●夏休み明けにフィールドワーク研修の成果報告と最終課題研究の中間報告②を行う。●～10月末最終課題研究論文提出 ●11月研究論文発表会

【評価方法】

観点	割合	評価方法
知識・技能	2割	●前期評価は単元毎に課す課題レポートを総合的に行う。後期は最終課題研究論文を評価して行う。最終論文については5分程度で発表する。その後の口頭試問を含めて年次総合評価を行う（前期・後期評価の平均ではない）。 ●3観点「思考・判断・表現力」は思考・コミュニケーション・ソーシャル・リサーチスキルから、「主体的な態度」は自己管理スキルから、また「知識・技能」は学習した新知識がどの程度まで研究の土台になっているか、評価する。
思考・判断・表現	6割	
主体的に学習に取り組む態度	2割	

科目名	純喫茶のエチカ (地球市民Ⅱ)	担当教員の学科	社会	対象学年	3年
分類 (必修・選択必修・自由選択)	選択必修			単位数	2
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒のプレゼンテーションを中心に授業を行うため、発表やレポート、論文に主体的に取り組める方。 ・校外研究、研究旅行に参加できる方。 ・歴史とコーヒーが好きで、喫茶文化から世界を捉えたいという方。カフェ探訪を始めたいという方。 ・嗜好品文化について幅広く知りたいという方。居心地のよい場所を探したい方。 ・コーヒーという事象から「近代化」「市民性の誕生」「民主主義」「南北問題」「覇権国家」「サードプレイス」「社会的インフラ」「身体史と心性史」といった歴史学・社会学などへの関心を持ちたい方。 ・授業内でコーヒーを飲むため、アレルギー等で問題ない方。ブラックコーヒーが飲めることが望ましい。 				
履修上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・見学先の都合により、土曜日などの授業設定のない日に校外研究が設定される可能性がある。 ・個人の調査を前提とする課題では、各自でフィールドワークを行う必要がある。 				
校外研究	あり	研究旅行	あり		
講座にかかる費用 (教科書・副教材除く)	114,000 円程度 +各自調査・研究にかかる費用	内訳	研究旅行 100,000 円、校外研究 3,000 円×2 コーヒー器材購入費 8,000 円		

【学習内容と目標】

コロナ禍において私たちの居場所は必然的に自宅や学校、職場等に限定され、個人の身体的布置という現実を強制された。その中で私たちの生活における「サードプレイス (第三の居場所)」の重要性は、政治・経済といった身体性の文脈を超えた、心性の部分においてふたたび注目されつつある。一方でテレワークの普及に伴い、カフェを職場化する「ノマドワーカー」の出現も昨今の社会現象である。コーヒーへの素養を多面的に身につけ、「今の時代に求められる喫茶文化」についてそれぞれが明らかにしていくことを目標とする。その上で、受講者それぞれが自分の居場所を見つけられるような、カフェ探訪の起源となることを期待している。

【学習計画 (*は実験および実習)】

学期	単元	学習内容	学習活動の特徴・備考
1期	コーヒー概論 ※内容は受講生の興味関心、理解度、授業時数等の状況により弾力的に変更する事があります。	<ul style="list-style-type: none"> ・美味しいコーヒーの淹れ方： 生産地毎の豆の特徴/豆の構造/シルバースキン[茶麩]とは <u>フレンチスタイルのドリップ技法を体験的に教授します。初回までに各自で器材を揃えて持参してください。</u> ・コーヒーの歴史学： カルディ伝説/イスラーム世界のコーヒー/コーヒーハウス/サロン/コーヒープレジデント/モノカルチャー経済/日本喫茶史概/可否茶館/カフェ/純喫茶/ジャズ喫茶/レコード喫茶/缶コーヒー/ドトルの上陸/スタバ以後/メイドカフェ ・コーヒーの化学：精製について/カフェインの効用/脱カフェイン症候群等 ・コーヒーの社会学： 喫茶店のドラマツルギー/サードプレイスとしての喫茶店/学びの場・学びのネットワークとしての喫茶店/都市景観とカフェ/カフェのインテリア・エクステリア /カフェが支えている民主主義/これからの時代に必要とされるカフェの在り方 /SDGs から見たコーヒー/代替コーヒーの未来/2050年問題とコーヒー... 	<p>講義形式は1期までとし、2期からは受講生による発表形式を中心とする授業を行う。</p> <p>個人研究を積極的に行い、自らの視点でカフェ体験を言語化する能力が求められる。</p>
2期	コ ー ヒ ー	受講者各自がコーヒーを巡る課題を随意に設定し、ゼミ形式での個人発表に基づく授業を行う。	
3期	× [?]	2期、夏季休暇、3期には校外学習における関東圏のカフェ探訪、関西圏への研究旅行を実施し、より視野を広げた個人研究を行います。詳細については授業で説明します。3期はオレンジ祭での喫茶店等の出店や研究発表も検討しています。	

【評価方法】

提出物および発表から総合的に評価します。詳細は初回ガイダンスで説明します。

科目名	ミライのための平和プロジェクト			教科名	国際(地球市民Ⅱ)	対象年次	3年次
分類	選択必修	主たる観点	③	併せ持つ観点	①②	単位数	2
履修条件	2年次に「世界史探究」または「日本史探究」を履修していることが望ましい。 夏期(7月末～8月初旬)研究旅行に参加できること。						
履修上の注意事項	授業時間以外に、自宅での予習や休暇中のレポート作成などを課す。履修する生徒には、戦争・迫害の展示や語りに触れて、自ら調べ自ら学び、主体的に行動を起こす、積極的な姿勢を期待する。						
校外研究	関東圏の戦跡/ミュージアム訪問			研究旅行	広島・香川の戦跡/ミュージアム訪問		
講座にかかる費用(教科書・副教材除く)	約16万円	内訳 国内博物館 1万、広島・香川のミュージアム訪問 約15万円					

【学習内容と目標(5つのスキルをどう伸ばすか)】

<p>《学習トピック/テーマ》 私たちが心から願うミライを、「人間の安全保障」という観点から捉え直し、具体的なアートや研究として表現する。</p> <p>《目標とする資質・能力(コンピテンシー)》 地球市民として、世界や共同体の幸福と持続可能性のために、異なる立場に立つ人びとの意見も考慮しながら「人間の安全保障」実現の課題を分析し、学んだ知識やスキルを活かして解決方法を検討し、表現や研究などを通してあきらめず挑み続ける。</p> <p>《目標実現のため育てたいスキル》 100年前、そして75年前に起きた、地球規模の殺し合いに打ちのめされ国際平和を夢見た人類は、今や自由と競争のグローバル経済の中で正気を失ってしまったかのようだ。国際社会も、22年の「ウクライナ軍事侵攻」に有効策を打てなかった。これから未来を生きる皆さんにとって、平和と安全は以前にもまして重要だろう。本講座は、そんな混乱した世界に新しい切り口を開き人々を巻き込んでいくための、詩歌や文学、美術制作を含むアート創造や、都市設計や制度設計を含む卒業研究を行う生徒を、教室での授業と研究旅行を通じて支援する教科横断型の講座である。アートでは美術の創造的思考を、研究ではデザイン思考などの思考スキルを用いる。アイデア発案のためのリサーチスキルや、卒業研究を最後まであきらめずに進めていく自己管理スキルも大切になる。</p> <p>《学習活動の内容》 卒業研究プロジェクトでのアート制作や研究を行う養分となる、知識や経験の獲得を講座全員で目指していく。 ○前期:国際関係論や現代思想、民俗学などの概念をレンズとして、歴史的事実とピントを合わせ、平和のための重要な問いについて歴史的思考ができるように議論を進めながら、温めてきた卒業研究の構想を発展させていく。 ○夏季の研究旅行:広島の大原爆資料館とヒロコースト記念館、ならびに、香川の大島青松園の訪問を予定し、現実には起きた悪夢と私たちに託された希望について、コミュニケーションスキルや社会性スキルを活かしながら、経験者や伝承者からグループで直接聞きとりをして学ぶ。その後、瀬戸内海の直島(ベネッセハウスミュージアム、地中美術館)と豊島(心臓音のアーカイブ、豊島美術館)で現代アートや民俗学の考え方に触れ、人類が平和と自由を夢見る方法についてアイデアを再検討し、アートや研究の具体的な内容を深める。 ○後期:各自の卒業研究プロジェクトを講座全員で共有しながら相互に改善点や工夫を話し合い支援する。</p> <p>《最終成果物》 「論文」「エッセイ」「制作物」の3ジャンルとも提出可能。</p>

【学習計画(*は実験および実習)】

学期	単元	学習する概念	学習活動の特徴・備考
1期	なぜ戦争はなくならないのか	不一致を平和的に解決する方法にはどのようなものがあるだろうか	国連や民間の活動など現実の協調や平和構築について考える
	分析のレンズを持つ	グローバルと国際システム/無政府的国際システム/リベラリズムとリアリズム/国家、ネーション、国民国家/国家的語り、神話、メディア、フェイクニュース/マッチョイズムとフェミニズム/帝国主義とグローバル資本主義/普遍と土着/美術館とサイトスペシフィックアート	「世界史探究」「日本史探究」で学習した歴史的事実について、分析レンズでフォーカスを与え討論しレポートにまとめる
	なぜ集団安全保障は挫折し二度の世界大戦は起きたのか	集団安全保障体制は、なぜ挫折したのだろうか 指導者の役割/イデオロギー/武力行使/プロパガンダ/教育と立身出世/南京虐殺/三国同盟/大東亜共栄圏/原爆投下	当時の国家の指導者、市民、資本家、将校、革命家などの1人の役割を演じてシミュレーションし、分析をレポートにまとめる

2期	現代の世界はなぜ戦争を止められないのか	国際連合／国連憲章／安全保障理事会／総会／各国の実情／現代史	国連の構成国の1つの役割を演じて会議をシミュレーションし、分析をレポートにまとめる
3期	研修の振り返りプロジェクト推進支援	無差別殺戮・迫害／正義と戦争犯罪／贖罪と忘却 実行計画と最終成果物の相互検討	研修旅行を振り返った上で、各自の実行計画と進捗についてゼミ形式で共有し、相互に改善点や工夫を提案する

【評価方法】

観点	割合	評価方法
内容知識(一般的な知識)	25%	最終成果物(全体)、レポート
技能(思考・判断・表現)	50%	授業での討議、レポート、最終成果物(「調査」「振り返り」)での批判的思考の程度
主体的に学習に取り組む態度	25%	最終成果物(「計画」「行動」)、授業後リフレクション

なお下記の5段階の評価規準のように、4つの観点で評価するので、参考にしてください。

1	<ul style="list-style-type: none"> ● 成果物の質が非常に限定的である。 ● 主体的学習の計画と実施について誤った理解が多くみられる。 ● 批判的思考がほとんど示されていない。 ● きわめて柔軟性に欠けており、知識やスキルのエビデンスがほとんど見られない。
2	<ul style="list-style-type: none"> ● 成果物の質が限定的である。 ● 主体的学習の計画と実施についての理解が限定的である。 ● 批判的思考のエビデンスを限定的に示している。 ● プロジェクトへの知識または5つのスキルの応用のエビデンスを限定的に示している。
3	<ul style="list-style-type: none"> ● 成果物の質がまずまずである。 ● プロジェクトを通した主体的学習の計画と実施について基本的な理解を示している。 ● 基本的な批判的思考をある程度示し始めている。 ● 知識および5つのスキルをプロジェクトに応用させ始めている。
4	<ul style="list-style-type: none"> ● 成果物の質が良い。 ● 探究サイクルのすべての段階を通して、主体的学習の計画と実施について基本的な理解を示している。 ● 批判的思考をしばしば示している。 ● 知識および5つのスキルをある程度プロジェクトに応用している。
5	<ul style="list-style-type: none"> ● 成果物の質が高く、綿密な取り組みを示している。 ● 探究サイクルのすべての段階を通して、主体的学習の計画と実施について包括的できめ細やかな理解を示している。 ● 高度な批判的思考を一貫して示している。 ● 他者の支援を受けることなく、知識および5つのスキルを優れた方法でプロジェクトに応用している。

科目名	旅する人の観光学			教科名	国際（地球市民Ⅱ）	対象年次	3年次	
分類	選択必修	主たる観点	⑥	併せ持つ観点	① ⑤		単位数	2
履修条件	研究旅行(7月下旬～8月上旬)、校外研究(2回程度実施予定、土曜日実施の可能性あり)に参加すること。							
履修上の注意事項	特になし							
校外研究	あり			研究旅行	あり(7月下旬～8月上旬に3泊4日の予定)			
講座にかかる費用(教科書・副教材除く)	100,000円程度		内訳	研究旅行 95,000円程度 校外研究 5,000円程度				

【学習内容と目標（5つのスキルをどう伸ばすか）】

観光は21世紀最大の産業であるとともに、様々な文化の交流を生み出す力を持っている。これからの社会をより豊かで活力あるものにするために、観光はどのような役割を果たしていくべきだろうか。受講者にはぜひ「旅する人」になって、自らが観光に参加しながら、観光の可能性について考えてほしい。

観光を分析するためには、実際に観光活動が行われている現場を訪れる必要がある。そのために研究旅行や研究旅行を実施するので、積極的に参加すること。自らが立てた問いをもとに現地を調査するリサーチスキル、得られた情報をもとに考察を行う思考スキル、調査地でのヒヤリングや調査結果をプレゼンテーションするためのコミュニケーションスキル、これまでの調査や考察を整理してまとめていく工程を組み立てる自己管理スキル、そして自らが得てきた知見をもとに観光が目指す新しい社会を発信するソーシャル(社会性)スキルの育成を目指す。

【学習計画（*は実験および実習）】

学期	単元	学習内容	学習活動の特徴・備考
1期	観光学基礎 観光の話を聞く 観光の持つ力	観光という言葉の由来 校外研究 観光にまつわる話題(世界遺産、旅行会社運営など) 観光が生み出す交流	まずは観光活動の様々な側面に触れる。 校外研究では都道府県のアンテナショップを訪れて観光に携わる人々の熱意に触れ、観光研究を行う意欲につなげる。
2期	地域への観察眼を磨く	観光回遊論 ペルソナ・マーケティングと観光プラン 研究旅行 ※この講座では20年間関西方面に出かけていたが、これからは年度ごとに目的地を変えていく予定である。目的地によっては旅行費用が大きく変わることをご容赦ください。	研究旅行に向けて、実際のプランづくりに活用される理論をもとに現地での観光プランを考え、その内容をプレゼンテーションする。自らが楽しむのではなく、誰かを楽しませるプランについて検討することで、観光に対する思考の幅を広げる。
3期	オレンジ祭展示 論文完成	研究旅行の調査内容をオレンジ祭で展示する 論文の制作のため、構想発表会や報告会などを実施する。	現地調査には夏休みを活用することが必要なため、論文テーマは2学期のうちに仮のものを定め、夏休み中の調査をもとに最終決定していく。

【評価方法】

観点	評価方法
知識・技能	研究旅行や校外研究での調査報告、論文の内容で総合的に判断する。
思考・判断・表現	
主体的に学習に取り組む態度	

科目名	数学的モデリングの技法			教科名	国際（地球市民Ⅱ）	対象年次	3年次
分類	選択必修	主たる観点	④	併せ持つ観点	①②③⑤⑥	単位数	2
履修条件	履修条件は特にないが、以下の「履修上の注意事項」に留意すること。						
履修上の注意事項	<p>数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・B・Cをすべて（あるいはなるべく多く）履修していることが望ましい。</p> <p>プログラミングのスキルがほんの少しでもあると取り組みやすいかもしれない。</p> <p>与えられた問題を解くだけでなく、自ら問題を設定することが求められる。</p>						
校外研究	なし			研究旅行	なし		
講座にかかる費用（教科書・副教材除く）	受講者本人の研究内容による						

【学習内容と目標（5つのスキルをどう伸ばすか）】

実社会の問題を数学的モデルとして定式化して解決する技法を学ぶ。卒業エッセイでは、受講者自身が設定した実社会の問題を数学的モデルとして定式化して解決する（あるいは解決する方法を提案する）取り組みを行う。

【学習計画（*は実験および実習）】

学期	単元	学習内容	学習活動の特徴・備考
1期	最適化問題	最適化問題の一般的な表現方法を学ぶ。	身の回りから最適化問題として定式化できそうな事柄を見つけ、一般的なフォーマットに合わせて数学的に表現する。
2期	グラフ理論 ゲーム理論 確率分布 微分方程式 など	実社会における様々な構造や状況を数学的に表現して問題を解決する手法をいくつか学ぶ。具体的には、グラフ理論、ゲーム理論、確率分布、微分方程式などを受講者の性質に応じて扱う。	授業で扱った話題に関する課題に取り組む。 卒業エッセイで取り組むテーマを探す。
3期	課題研究	受講者自らが設定した課題に取り組む。	設定した課題や進捗について順に発表していき、相互扶助的にアイデアを出し合う。

【評価方法】

観点	評価方法
知識・技能	課題レポート、授業中の発表や議論への参加、卒業エッセイ
思考・判断・表現	
主体的に学習に取り組む態度	

科目名	卒論生物			教科名	国際（地球市民Ⅱ）	対象年次	3年次
分類	選択必修	主たる観点	④	併せ持つ観点	①③⑥	単位数	2
履修条件	2年次に生物基礎を履修していること（生物基礎未履修でも履修可能だが、特別な補習などは行わない）						
履修上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・実験、プレゼン、参考文献の読み込みなど、やることは多い ・生物を扱うため、放課後や朝の時間、空きコマ等を実験や作業に使う場合もある ・限られた時間の中で卒論を書きあげるだけの結果を出すには、相応の意欲や熱意が必要になる ・「自分で調べて考える」ことが基本になるので、教員から何かを「教える」講座ではないです。教員はあくまでディスカッション相手くらいのスタンスでいてください。 ・どのような実験でもできるわけではありません。倫理面、金銭面等で実験系の限界はあります。 						
校外研究	原則なし（研究内容による）			研究旅行	なし		
講座にかかる費用（教科書・副教材除く）	適宜			試薬・高価な実験機器以外（植物の種とか）は実費負担です。			

【学習内容と目標（5つのスキルをどう伸ばすか）】

様々な情報を統合して「解明されるべきことは何なのか」「どうすれば解明できるのか」を考えることには、高度な思考スキルとリサーチスキルが求められます。また自ら実験計画を立てて実験計画を立てたり、いかにして自分が実験や探究へ没頭・熱中するかを考えたりするには自己管理スキルが求められます。自分の研究成果を正しく他者へ伝えて議論するには、高度なコミュニケーションスキルとソーシャルスキルが求められます。

こうした高度な複合スキルを成長させるには、自分の行動を自ら振り返って向上する姿勢が必須となります。そしてそのような姿勢をとるためには、何より自分自身が探究へ「熱中・没頭」する必要があります。もう実験をするなど言われても実験をやりたくなくなってしまうような、どうしようもない強い熱意と意欲に押されての履修をお待ちしています。生物が好きな方、生物を用いて何かを探究したい方、一緒に生物学の沼へ落ちましょう。みなさんの研究成果で生物実験室の展示がより豪華になる事を期待しています。なお講座担当者の最近のイチ推しは生物実験室に導入した海水水槽です。採ってきた当初は人間から逃げていた魚たちが、数日もすれば人間が来る＝餌がもらえると理解して近寄ってくるのです。かわいいからいいけど、あんな小さい脳みそでどうやってそんなこと学んでんの？

【学習計画（*は実験および実習）】

学期	単元	学習内容	学習活動の特徴・備考
1期	テーマ決定 (4月まで)	文献調査や予備実験により、研究テーマを決定する 原則は実験を伴う「論文」を作成することになります。	主体的かつ能動的な活動が求められます。 ただ作業をするだけでなく、結果を出せるよう計画的に活動する必要があります。
1期 2期 3期	実験・調査 進捗報告 論文指導	<ul style="list-style-type: none"> ・実験、文献調査等 ・進捗発表のプレゼン ・議論により、自分の研究内容を批判的に評価 ・論文作成 	実験方法や論文の書き方、文献調査の仕方など、基本的なことは指導します。 実験をどう進めるかは皆さんの創意工夫と議論とにかかっています。

【評価方法】

観点	割合	評価方法
知識・技能	40%	論文・プレゼン
思考・判断・表現	30%	研究における創意工夫、進捗発表
主体的に学習に取り組む態度	30%	進捗発表、研究を進める主体性（定期的な成果の有無）、議論への参加

科目名	物理分野で卒業論文を執筆する	教科名	理科	対象年次	3年次
分類 (必修・選択必修・自由選択)	学校設定科目			単位数	2
履修条件	・4単位物理と同時に履修すること				
履修上の注意事項	・テーマの設定から自分で行うことになる。 <u>担当教員は「教える人」というよりは「伴走者」的役割となる。覚悟をもって履修すること。</u>				
校外研究	なし	研究旅行	なし		
講座にかかる費用 (教科書・副教材除く)	なし	内訳			

【学習内容と目標 (5つのスキルをどう伸ばすか)】

<p>物理分野で卒業論文を執筆する。基本的には、他者の論文を読むことで到達すべき水準を理解し、自ら設定した問を解き明かすデータ取得可能な実験系を組み立て、論文にまとめるというプロセスとなる。</p> <p>他者の論文を理解し、発表する過程において思考スキルとコミュニケーションスキルを養う。また、限られた授業時間内で実験系を考案し、論文執筆に至るためには、高い思考スキルとリサーチスキル・自己管理能力が要求される。一連の活動を通して科学的知見の積み重ねの過程を学ぶことはソーシャルスキルの獲得そのものである。</p> <p>理論物理での論文制作もありうるが、相当の力量と独学が必要となる。</p>
--

【学習計画 (*は実験および実習)】

学期	単元	学習内容	学習活動の特徴・備考
I	準備	他者の論文を読んで発表する 研究テーマを模索する 先行研究の論文を読む 実験系を考案する	
II	実験 理論	実験系を組み立てる 実験によりデータを集める 中間発表 (プレゼン)	
III	卒論制作	卒業論文を執筆する 卒論発表	

【評価方法】

観点	評価方法
知識・技能	中間発表、卒業論文、卒論発表
思考・判断・表現	
主体的に学習に取り組む態度	

科目名	環境化学	教科名	理科	対象年次	3年次
分類 (必修・選択必修・自由選択)	学校設定科目			単位数	2
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> ・地球市民Ⅰで「環境化学入門」を履修していること・「化学への橋渡し」を履修していること ・4単位「化学」と同時に履修すること 				
履修上の注意事項	なし				
校外研究	なし	研究旅行	なし		
講座にかかる費用 (教科書・副教材除く)	あり	内訳：実験材料のうち、薬品等以外のものは各自で準備			

【学習内容と目標 (5つのスキルをどう伸ばすか)】

2年次に地球市民Ⅰ「環境化学入門」で、研究トピック、リサーチクエストと仮説を検証する実験を設定してもらいました。地球市民Ⅱ「環境化学」では、その実験を実際に実施し、実験結果から得た考察によって、仮説を検証します。これらの活動を最終的に卒業論文としてまとめ、研究発表を行います。

まず、実験の手順を先行文献などを参考に作成します。必要な情報を得ること、また、その情報の有用性の吟味を行うことを通して、リサーチスキルの向上を期待します。

次に、実験を実施します。計画的に実験を進め、授業時間を有効に使うことが重要となりますので、自己管理能力が求められます。

さらに、実験結果をまとめ、考察し、仮説を検証します。正しい根拠に基づいた適切な論拠を固めながら、論理的かつ創造的な結論を導き出す過程で、思考スキルの向上が期待されます。

最後に、実験を中心とする研究活動では、同じ講座を受講している生徒同士や、担当教員と生徒間で、コミュニケーションを取りながら、活動することを大切にします。そのことによって、講座内での対話が恒常的に生まれることを期待しています。

【学習計画】

学期	単元	学習内容	学習活動の特徴・備考
1	研究準備	地球市民Ⅰ「環境化学入門」で設定したトピック、リサーチクエストと仮説を検証する実験に基づいて進める。 ①実験の手順を作成 ②実験実施	
2	実験実施	②実験実施 ③実験結果のまとめと考察 ④実験結果と考察の発表 (中間発表)	
3	卒論制作	⑤卒業論文を執筆する ⑥卒論研究の発表	

【評価方法】

観点	評価方法
知識・技能	中間発表、卒業論文、卒論発表
思考・判断・表現	
主体的に学習に取り組む態度	

科目名	ヴォカリゼーション			教科名	国際（地球市民Ⅱ）	対象年次	3年次	
分類	選択必修	主たる観点	③	併せ持つ観点	① ・ ②		単位数	2
履修条件	楽譜が読めること。							
履修上の注意事項	特になし。							
校外研究	ミュージカル観劇			研究旅行	実施しません。			
講座にかかる費用（教科書・副教材除く）	8,000 円程度			内訳	ミュージカル観劇			

【学習内容と目標（5つのスキルをどう伸ばすか）】

【学習内容と目標】

ヴォカリーズを用いた基礎演習と音声学的な発声の仕組みを学び、3期の自由課題へ繋げて行きます。ジャンルを問わず歌の基礎を体得し、ソロ、アンサンブル共に自由な表現と音楽的コミュニケーションを助けることを目標とします。

1. **思考スキル** 調査研究の対象となり得るテーマを模索していくうえで、思考する力を伸ばしていく。
2. **コミュニケーションスキル** 他者と協働しながら表現力を磨いていく中で、音楽的コミュニケーションの力をのばしていく。
3. **ソーシャルスキル** 歌を中心とした音楽表現活動を行っていくなかで、他者と協働しながら社会性を身に付けていく。
4. **自己管理スキル** 実技の成果発表とエッセイ作成において、それぞれやるべきことの量・質を理解し、適切な取り組みを行い自己管理の力を磨いていく。
5. **リサーチスキル** 信憑性の低い情報に惑わされることなく、自分に必要な情報を自らきちんと得るためのリサーチスキルを身に付けられるようにする。

【学習計画（*は実験および実習）】

学期	単元	学習内容	学習活動の特徴・備考
1期	基礎演習 発声の仕組み	コンコーネ（ヴォカリーズ）と発声の仕組み	
2期	応用編	アカペラアンサンブル	
3期	まとめ 成果発表	成果発表（演奏会形式）と研究記録書の提出	

【評価方法】

観点	割合	評価方法
知識・技能	40%	コンコーネとアンサンブル
思考・判断・表現	40%	成果発表と研究記録書
主体的に学習に取り組む態度	20%	

科目名	若者を取りまく音楽文化の変遷			教科名	国際（地球市民Ⅱ）	対象年次	3年次	
分類	選択必修	主たる観点	③	併せ持つ観点	① と ②		単位数	2
履修条件	音楽の歴史や音楽文化に興味、関心があること。							
履修上の注意事項	特になし。							
校外研究	学期に1回程度実施する予定です。			研究旅行	実施しません。			
講座にかかる費用（教科書・副教材除く）	特になし。			内訳				

【学習内容と目標（5つのスキルをどう伸ばすか）】

【学習内容と目標】

時代の変化に伴い、音楽のスタイルには流行り廃りが見られます。そうした音楽の変化に焦点を当てて、デジタル機器の発達やSNSの普及など外的要因とも関わらせながら、音楽文化の変遷について学んでいきます。

1. **思考スキル** 調査研究の対象となり得るテーマを模索していくうえで、思考する力を伸ばしていく。
2. **コミュニケーションスキル** 自分の考えや発表が他者からの共感や理解を得るにはどうすればいいか、また他者の発表から自分が持ち合わせていない視点や方法を学ぶことにより、対話力を磨いていく。
3. **ソーシャルスキル** 自分の中にある疑問と他者の中にある疑問をお互いの共通の課題・問題として位置づけ、協働しながら学ぶ中で、社会性を養っていく。
4. **自己管理スキル** ゴール設定や期限を明確にすること。そして、そこに向かって努力を重ねていく中で、やるべきことの量・質を理解し、適切な取り組みを行い自己管理の力を磨いていく。
5. **リサーチスキル** 信憑性の低い情報に惑わされることなく、自分に必要な情報を自らきちんと得るためのリサーチスキルを身に付けられるようにする。

【学習計画（*は実験および実習）】

学期	単元	学習内容	学習活動の特徴・備考
1期	導入と展開	① 学習内容の説明 ② J-POPの特徴を学ぶ ③ 諸外国の音楽について ④ デジタル機器の発達に伴う音楽の変化について ⑤ アプリやSNSの発達に伴う音楽の変化について	
2期	音楽文化比較研究	① 異なるジャンルの音楽から共通点を探る ② クラシック芸術とポップカルチャーとの比較 ③ 日本の音楽文化と海外の音楽文化の比較 ④ ゲーム音楽やアニメ音楽の特徴を探る	
3期	個人研究	① I期・II期の学びを踏まえ、研究テーマを設定 ② 質的研究・量的研究 ③ 文献調査（先行研究） ④ 論文作成 ⑤ 発表	

【評価方法】

観点	割合	評価方法
知識・技能	40%	「最終成果物」の提出と発表を評価全体の80%扱いとして、評価を行います。
思考・判断・表現	40%	〃
主体的に学習に取り組む態度	20%	

科目名	Well-being and Happiness through Global Perspective (地球市民Ⅱ)			教科名	国際 (地球市民Ⅱ)	対象年次	3年次
分類	選択必修	主たる観点	⑥⑤	併せ持つ観点	①	単位数	2
履修条件	特になし。授業内での発表や、文献に関して質問を考え、それを元にクラスで話し合い、自らの perspective (見方) を述べる授業参加姿勢が前提となる。						
履修上の注意事項	<p>幅広い研究に触れるため、文献は日本語、英語のものを両方扱う。そのため講義では文献の種類に応じて英語と日本語を両方用いる。また自らの研究を幅広く伝える可能性を高めるため、学生が行う授業内プレゼンテーションは英語 (必要に応じて日本語) で行う。同様に最終的な成果物である論文・エッセイ・プロジェクト・卒業制作などの成果物 (あるいはその内容の説明) は英語で書くことを基本とする。</p> <p>*論文・エッセイ・プロジェクト・卒業制作などの成果物 (あるいはその内容の説明) は主に内容で評価するので、英語で書くことが特別に得意でなくとも内容に関心があれば受講は可能。</p>						
校外研究	ルミネぎよしもと観劇			研究旅行	なし		
講座にかかる費用 (教科書・副教材除く)	2500円程度			内訳	ルミネぎよしもと観劇		

【学習内容と目標 (5つのスキルをどう伸ばすか)】

Thinking skill (思考スキル)

well-being や主観的幸福度は社会政策、都市計画から、ポジティブ心理学、個人の日常生活や教育、またはそれらの国際比較など、基礎的研究から応用まで研究分野が多岐にわたるため、受講者の興味関心に応じた文献を学生自らが探し、それを元にディスカッションや調査研究を行う。

また、毎年 Sustainable Development Solutions Network が Gallup World Poll Data のデータを用いて発表している World Happiness Report(WHR)による人生の満足度調査とその説明因子 (他者への信頼、経済、健康寿命など) に関して知り、また WHR そのものの調査手法やその妥当性、Happiness の定義、各因子と幸福度 (例: お金と幸福度など) について多角的に検討する。

Research skill (リサーチスキル)

社会科学分野における量的・質的な Research Method について学び、論文作成を通じて、social science の研究手法、社会科学分野の学問特性、およびその応用範囲と限界について学ぶ。

Social skill (ソーシャルスキル)

授業内での学生の発表や文献に関連する問いに関してディスカッションを行うことにより、social skill を身に着ける。

Communication skill (コミュニケーションスキル)

授業内での文献紹介及び卒論・エッセイ・プロジェクト・卒業制作などの進捗状況報告を主に英語で行う。また、授業内においても文献を日英両方の言語である程度理解することができ、授業で扱った文献や自らの研究内容についてどちらの言語でも説明する力を身に着ける。

Self Management skill (自己管理スキル)

授業内で学んだ内容を元に、振り返りを毎授業書くことを通じて、自らの学びを内在化させることを行う。また、自らの取り組む論文・エッセイ・プロジェクト・卒業制作などについての内容を定期的に報告し peer feedback を得る機会を持つとともに、発表を通じて自らの学びを客観的に捉えなおすことを行う。

【学習計画（*は実験および実習）】

学期	単元	学習内容	学習活動の特徴・備考
1期	社会科学 文化人類学 など	<p>Well-being と Happiness に関連する文献について授業や学生同士の興味関心に応じた文献紹介・発表を通じて学ぶ機会を持つ。</p> <p>また、World Happiness Report(WHR)による人生の満足度調査とその説明因子（他者への信頼、経済、健康寿命など）に関して知り、また WHR そのものの調査手法やその妥当性、Happiness の定義、各因子と幸福度（例：お金と幸福度など）について多角的に文献や資料を通じて学び議論を行う。</p> <p>関連するトピックの例：日本の幸福度、人とのつながりと幸福度、お金と幸福度、幸福度の国際比較、働き方と幸福度、など。</p>	<p>本コースに関連する文献や研究、実践に関して受講者自ら調べクラス内で発表し、問いを立てクラスで考える機会をもつ。</p>
2期	Research Method *	<p>社会科学分野における量的・質的な Research Method について学び、論文作成を通じて、social science の研究手法、分野の学問特性、およびその応用範囲について学ぶ。</p> <p>また、Well-Being と Happiness に関連する分野として、「笑い」について実感するため、実際にお笑いの劇場に行き、「笑い」と主観的幸福度とのつながりについて体感する機会を持つ。</p>	<p>Well-being を高めるための社会政策や、実践的な取り組み、理論的枠組みなどと、その適用範囲、応用可能性について各自で調べそれをクラスで発表する。</p> <p>ルミネぎよしもと観劇</p>
3期	Writing thesis/ Essay	<p>個々の受講生の論文・エッセイの中間報告および最終発表にいたるまでの制作過程で、質的・量的、あるいはその複合的な調査研究を行い、その成果を発表しながら学生同士のフィードバックを受け、完成に近付けていく。</p>	<p>卒論・エッセイの中間報告及び最終発表を行う。</p>

【評価方法】

観点	割合	評価方法
知識・技能	10～20%	プレゼンテーション（文献レビュー、卒論中間報告、最終発表）
思考・判断・表現	60～70%	*卒業論文・エッセイ・プロジェクト・卒業制作など
主体的に学習に取り組む態度	10～20%	日頃の課題、リフレクション、授業での取組、

*評価物は主に内容で評価するので、英語で書くことが特別に得意でなくとも内容に関心があれば受講は可能。

科目名	服飾造形			教科名	国際（地球市民Ⅱ）	対象年次	3年次
分類	選択必修	主たる観点	③	併せ持つ観点	⑥	単位数	2
履修条件							
履修上の注意事項							
校外研究	なし			研究旅行	なし		
講座にかかる費用（教科書・副教材除く）	材料費実費		内訳：布・糸・型紙用紙・副資材等				

【学習内容と目標（5つのスキルをどう伸ばすか）】

各自の課題に基づき作品の制作を行い、その制作工程や制作の意図をレポートにまとめます。
 テーマを問わず「身につけるもの」や「裁縫技術を必要とするもの」であれば、衣服以外でも帽子やバッグ等の服飾小物、から衣装まで柔軟に対応します。テーマ設定などは2年生のうちから相談に応じますので受講予定の方は気軽に家庭科教員室へ相談してください。

社会課題を解決する作品・環境に配慮した衣服制作の試みなど、これまでの学びの集大成を作品制作によって形にした人を受け入れます。

- ・思考スキル：コンセプトを満たすデザインを考える。コンセプトと作品が適合しているか常に確かめる。
- ・コミュニケーションスキル：作品の制作意図をわかりやすく伝える。
- ・ソーシャルスキル：作品と社会の関係（社会的意義）について述べる。
- ・自己管理スキル：制作手順を考え、スケジュール管理をする。
- ・リサーチスキル：情報を幅広く集め、自分の作品制作に役立つものを選択、活用する。

【学習計画】

学期	単元	学習内容	学習活動の特徴・備考
1期	1.課題の設定 2.デザインの決定 3.制作計画 4.制作	<ul style="list-style-type: none"> ・作品のコンセプトを決定する ・コンセプトに合うデザインを決定する ・制作方法や材料を決定し、スケジュールを立てる ・制作 	
2期		<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き制作し、完成させる 	作品を発表し、改善のための意見交換を行う
3期	5.作品の改善 6.制作レポートの作成 7.作品発表	<ul style="list-style-type: none"> ・前期の評価を受けて、改善を行う ・作品の制作意図や制作方法、制作を通して考えたこと、わかったこと、この作品制作の意義などをまとめる ・作品の発表を行う（形式は未定。プレゼン形式を基本 	

【評価方法】

観点	割合	評価方法
知識・技能	40%	作品の制作技能・作品がコンセプトに適合しているか
思考・判断・表現	50%	制作計画、制作レポート、作品発表
主体的に学習に取り組む態度	10%	平常点

科目名	子どものしあわせを考える			教科名	国際（地球市民Ⅱ）	対象年次	3年次	
分類	選択必修	主たる観点	⑤	併せ持つ観点	①、⑥		単位数	2
履修条件								
履修上の注意事項	クラス内での討論、論文テーマの設定など、講座選択者が能動的に発言することや考えを深めていくことが前提となります。							
校外研究	なし			研究旅行	なし			
講座にかかる費用（教科書・副教材除く）				内訳				

【学習内容と目標（5つのスキルをどう伸ばすか）】

自身の論文テーマ設定の際にさまざまな資料にあたる・・・リサーチスキル
調べたことが自身で思う「しあわせ」とどうつながっていくかを考える・・・思考スキル
自身のしあわせと社会通念上の「しあわせ」との関係性を見つめる・・・ソーシャルスキル
中間発表や最終発表までに計画立てて学習や準備を進める・・・自己管理スキル
発表や論文を通じて、自身の意見を周囲に伝える・・・コミュニケーションスキル

【学習計画（*は実験および実習）】

学期	単元	学習内容	学習活動の特徴・備考
1期	「しあわせ」を多角的に考える	・“子どものしあわせ”をキーワードに、受講者がテーマを考え、討論する	・クラス内で討論。 ・毎回授業終了時にまとめを作成する。
2期	課題決め、最終成果物の制作開始	・講座のテーマをもとにした各自のテーマを決める ・論文執筆開始 ・中間発表	地球市民Ⅰでの学習や、1期で学んだことを通じて、自分なりの「しあわせ」を追究したテーマを設定する。
3期	卒論制作	・最終成果物完成 ・ // 発表	・個人で発表を行う。 ・講座選択者からの質疑応答、担当教員からの質疑応答を総合して評価とする。

【評価方法】

観点	割合	評価方法
知識・技能	10%	授業への参加の仕方、毎授業に提出する「まとめ」、中間発表の内容、最終論文の内容・発表・質疑応答の中身を総合して評価します。
思考・判断・表現	60%	
主体的に学習に取り組む態度	30%	

科目名	スパイダー討論で進める問題解決とリーダーシップ			教科名	国際（地球市民Ⅱ）	対象年次	3年次	
分類	選択必修	主たる観点	①	併せ持つ観点	④・⑤		単位数	2
履修条件	なし							
履修上の注意事項	グループでの活動・発表が多い授業です。グループにタダ乗りしないよう、意欲的に問題解決に取り組む姿勢が求められます。							
校外研究	なし			研究旅行	なし			
講座にかかる費用（教科書・副教材除く）	なし							

【学習内容と目標（5つのスキルをどう伸ばすか）】

身近な問題に対し、討論を通して合意形成し、その過程において必要なリーダーシップについて理解を深めながら問題解決できるよう探究します。最終成果物はグループで作成する「制作物」です。

グループでの活動を基本とするため、日常的に思考スキル、コミュニケーションスキル、ソーシャルスキル、リサーチスキル・自己管理スキルを養います。

【学習計画（*は実験および実習）】

学期	単元	学習内容	学習活動の特徴・備考
1期	【知識・スキル】 リーダーシップの種類 課題の設定 情報の収集	ペーパータワー作成等のアクティビティを通して自分が考える理想のリーダーシップを実践する。 カリスマ型、変革型、サーバント、オーセンティック、シェアドリーダーシップの特徴を学ぶ。 身近な問題をブレインストーミングする。各自、最も興味のある問題を解決するため、仮説を立て、インターネットや図書館、実験・観察・インタビューを行い情報収集し、クラス内でプレゼンテーションを実施する。上位の問題に対し、グループで問題解決を行う。	スパイダー討論のかたちで授業を進める。発言のバランスや心理的安全性に配慮した話し合いを行う。
2期	【経験学習】 整理・分析 中間発表・中間振り返り	リーダーシップを意識しながら、グループで問題解決を行う。必要に応じて Excel 等のツールを使い、表やグラフにまとめ、考察する。 そのうえで問題解決に必要な解決策を制作・実践する。	解決策に応じて3Dプリンタを活用したり、スマホで使えるアプリを作成したり、グループごとに最適な解決策を決めて実践する。進捗はグループごとに発表・振り返りを行う。
3期	まとめ・表現	制作物の完成 発表・質疑応答 振り返り	発表はグループ全員で行う。

【評価方法】

観点	評価方法
知識・技能	各授業での振り返り、授業内での取組、制作物・論文、最終発表・質疑応答を総合的に評価します。
思考・判断・表現	
主体的に学習に取り組む態度	